

国立大学法人 滋賀医科大学

開学50周年 「三方よし」未来募金 趣意書



湖国とともに、世界に羽ばたく
医療のあゆみ半世紀、さらなる飛躍へ



継続的に地域を支える良き医療人を輩出し、 滋賀県における地域医療の最後の砦として 人々の命を守り健康増進に貢献します。

滋賀医科大学は、1974年(昭和49年)に開学し、2024年(令和6年)に開学50周年という大きな節目を迎えます。

開学当時、医師は地域的に偏在しており、医療過疎県の一つとなっていた滋賀県の医師数は人口10万人あたり97.0人※でした。そんな中、県民の熱意に支えられた誘致運動の末に設立されたのが滋賀医科大学です。

※昭和44年12月末日現在(参考:平成30年12月末日現在、滋賀県における人口10万人あたり医師数は227.6人)

本学は、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学」を目指して、開学から今日まで、全人的医療・看護を行う優れた医療人の育成、特色ある医学・看護学研究、先進的な医療を実践してまいりました。

開学にあたっては、医学生教育に欠かすことのできないご献体の確保をはじめ多くの困難がありましたが、篤志献体団体である「しゃくなげ会」の皆さま方のご支援を受けながら教職員一丸となって乗り越えてまいりました。

また、その後の滋賀医科大学の発展は、卒業生の皆さまと同窓会「湖医会」のご努力をはじめ、地域の皆さま方及び各界各層からのご理解とご支援の賜物であると心から感謝しております。

このたび、開学50周年を迎えるにあたり、「湖国とともに、世界に羽ばたく～医療のあゆみ半世紀、さらなる飛躍へ～」をスローガンに掲げ、学生、患者さま及び卒業生はじめ地域の皆さまのご期待に応えるため、新型コロナウイルス感染拡大防止に細心の注意を払いながら、様々な記念事業を展開する予定です。

この記念事業では、老朽化が著しい中庭及び狭隘な学生食堂と福利棟を美しく機能的にリニューアルして、学生が美しいキャンパスで過ごし、地域において医療・看護の分野で活躍している卒業生の皆さまと交流ができる施設として整備することなどを計画しています。

本学教職員一同は、本学の理念と使命の達成に向けた決意を新たにして開学50周年記念事業を成功させ、継続的に地域を支える良き医療人を輩出し、医学・看護学の研究成果を世界に発信し、滋賀県における地域医療の最後の砦として人々の命を守り健康増進に貢献することを、しっかりと取り組んでいく所存でございます。

本趣意書の内容を含め滋賀医科大学の決意にご賛同いただき、ぜひとも皆さま方からのご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

滋賀医科大学長
上本 伸二

歴代学長

脇坂行一 初代学長(1974年10月～1987年3月)	吉川隆一 5代目学長(2001年4月～2008年3月)
佐野晴洋 2代目学長(1987年 4月～1993年3月)	馬場忠雄 6代目学長(2008年4月～2014年3月)
岡田慶夫 3代目学長(1993年 4月～1997年3月)	塩田浩平 7代目学長(2014年4月～2020年3月)
小澤和恵 4代目学長(1997年 4月～2001年3月)	上本伸二 8代目学長(2020年4月～)

地域に支えられ、地域に貢献し、 世界に羽ばたく大学

滋賀医科大学は、「一県一医大」構想の下、医学部医学科の単科大学として昭和49年に開学しました。

附属病院の開院や大学院医学系研究科の設置を経て現在に至ります。

理 念

滋賀医科大学は、地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、
医学・看護学の発展と人類の健康増進に寄与することを理念とする。

使 命

1. 豊かな教養、確かな倫理観、高い専門的知識を有する信頼される医療人を育成する。
2. 研究倫理と独創性を有する研究者を養成し、特色ある研究を世界に発信する。
3. 信頼と満足を追求するすぐれた全人的医療を地域に提供し、社会に貢献する。



滋賀医科大学の三大使命 3C

創 造

1. Creation

優れた医療人の育成と
新しい医学・看護学
医療の創造

挑 戦

2. Challenge

優れた研究による
人類社会・現代文明の
問題解決への挑戦

貢 献

3. Contribution

医学・看護学・医療を
通じた社会貢献

サステナブルでアトラクティブな大学

Sustainable and Attractive

滋賀医科大学のあゆみ

History of SUMS

県民の熱意に支えられた誘致運動 ～ 1974

- 1971 昭和46年
 - ・滋賀県が国立医科大学の設置に係る陳情書を中央政界等に送付 文部省及び厚生省に設置を陳情
- 1972 昭和47年
 - ・「国立医科大学滋賀県誘致期成会」会長に野崎欣一郎滋賀県知事を選任
- 1973 昭和48年
 - ・滋賀県厚生部に「国立滋賀医科大学設立準備室」を設置
- 1974 昭和49年
 - ・「滋賀医科大学創設準備室」を京都大学に設置



奥野文相(左)と野崎知事(右)

開学からの10年間 1974～1983

- 1974 昭和49年
 - ・滋賀医科大学開学(滋賀県守山仮校舎) 初代学長に脇坂行一氏が就任



守山仮校舎



本校舎(大津市瀬田月輪町)に移転(1976年)

「しゃくなげ会」は、篤志献体団体で、医療人の育成に不可欠である解剖学教育のため、ご自身のご遺体を無条件・無報酬でご提供いただいております。発足時は会員確保に大変な苦勞がありましたが、現在では会員数は約4,000名に達しています。献体の受入れから実習を経て返骨まで、学生はご遺体を師として高い倫理観も学んでいます。

- 1975 昭和50年
 - ・「しゃくなげ会」発足

- 1978 昭和53年
 - ・滋賀医科大学医学部附属病院を開院



1980年秋日本ヒポクラテス会のご好意により、コス島の親樹の実から仕立てた苗木として頒けられたものです。その樹の下でヒポクラテスが学生に医学や倫理を講じたと伝えられています。



- 1980 昭和55年
 - ・ヒポクラテスの樹を植樹

- 1981 昭和56年
 - ・学章を決定



デザインについて

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたものです。 “中心に向って、外からさざ波の波動—これは人々の医への期待である。 外に向って中心から一隅を照らす光の波動—これは人々の期待に返す答えである。”

1972 昭和47年 国立医科大学滋賀県誘致期成会の決議 (昭和47年6月1日)

滋賀県に国立医科大学を設置することは、県民の多年にわたる念願である。現在、わが国の大学医学部(医科大学)の分布は、その偏在が著しく、近畿府県のうち未設置県は本県のみであり、かつ、医師の充足率においても低位にあり、県民は、医療水準の向上と地域医療の充実を強く望んでいる。

われわれは、持てる力を結集し、受け入れ体制を整え、新鮮にして創造的な教育理念に基づく国立医科大学の設置の早期実現に邁進する。

以上決議する。

1998 平成10年 全国の国立大学で初めて「地域枠」導入

卒業後に滋賀県への定着率の高い県内出身者を確保するため、平成10年度に国立大学として初めて「地域枠」を導入しました。

開学以来取り組んでいる滋賀県の地域医療を支える医療人を育成するため、段階的に地域枠定員を拡大しています。



県内唯一の大学病院として、地域医療を支える良き医療人の輩出に取り組んできました。これからも、地域医療の最後の砦として、滋賀県民の命と健康を守るとともに、滋賀県の医療を担う優秀な医療人の育成に努めます。

開学10周年から30周年へ 1984～2004

- 1994 平成6年
 - ・医学部看護学科の設置
- 1995 平成7年
 - ・医学部附属病院特定機能病院として承認
- 1998 平成10年
 - ・医学科推薦入試に「地域枠」を導入



開学30周年から現在まで 2004～

- 2004 平成16年
 - ・国立大学法人法の施行に伴い、国立大学法人滋賀医科大学が設立
 - ・医療人育成教育研究センター(現医学・看護学教育センター)の設置
 - ・卒後臨床研修センター(現医師臨床教育センター)の設置

- 2007 平成19年
 - ・地域「里親」による学生支援プログラムを開始

- 2009 平成21年
 - ・看護臨床教育センターの設置

- 2014 平成26年
 - ・滋賀県医師キャリアサポートセンターを医学部附属病院内に開設
 - ・地域医療教育研修拠点を設置

- 2015 平成27年
 - ・看護学科にて「在宅看護力育成事業：訪問看護師コース」を設置(現地域医療実践力育成コース)

- 2016 平成28年
 - ・看護師特定行為研修を開始

- 2020 令和2年
 - ・医学科に「地域医療重点プログラム」を設置(現地域医療重点コース)

- 2021 令和3年
 - ・学生ラウンジ、エントランスステージの新設、多目的教室の整備、ワンストップサービス(学生課移転)の実現

国立大学として初めて、特定行為研修の指定研修機関として指定を受けました。特定行為とは、実践的な理解力や判断能力のほか、高度な専門知識や技術をもって行う診療補助のことです。特定行為研修を受けた看護師が、患者さんの状態を見極めることで、タイムリーな対応が可能になります。また、医師の業務軽減にもつながります。

学生の要望を反映させた施設整備を行い、落ち着いた環境で勉強したり語らえる学生ラウンジや若鮎祭(学園祭)等で発表の場となるステージを整備しました。



学生ラウンジの新設



エントランスステージの新設



多目的教室の整備



学生ラウンジ横に学生課を移転

2007 平成19年 地域「里親」による学生支援プログラム

地域「里親」学生支援プログラムは、学生に滋賀県の文化・歴史や医療事情等を知る機会をつくり、卒業後は県内で医療人となり地域医療に貢献しようという思いを育む取り組みで、現在はNPO法人滋賀医療人育成協力機構を設立して継続しています。

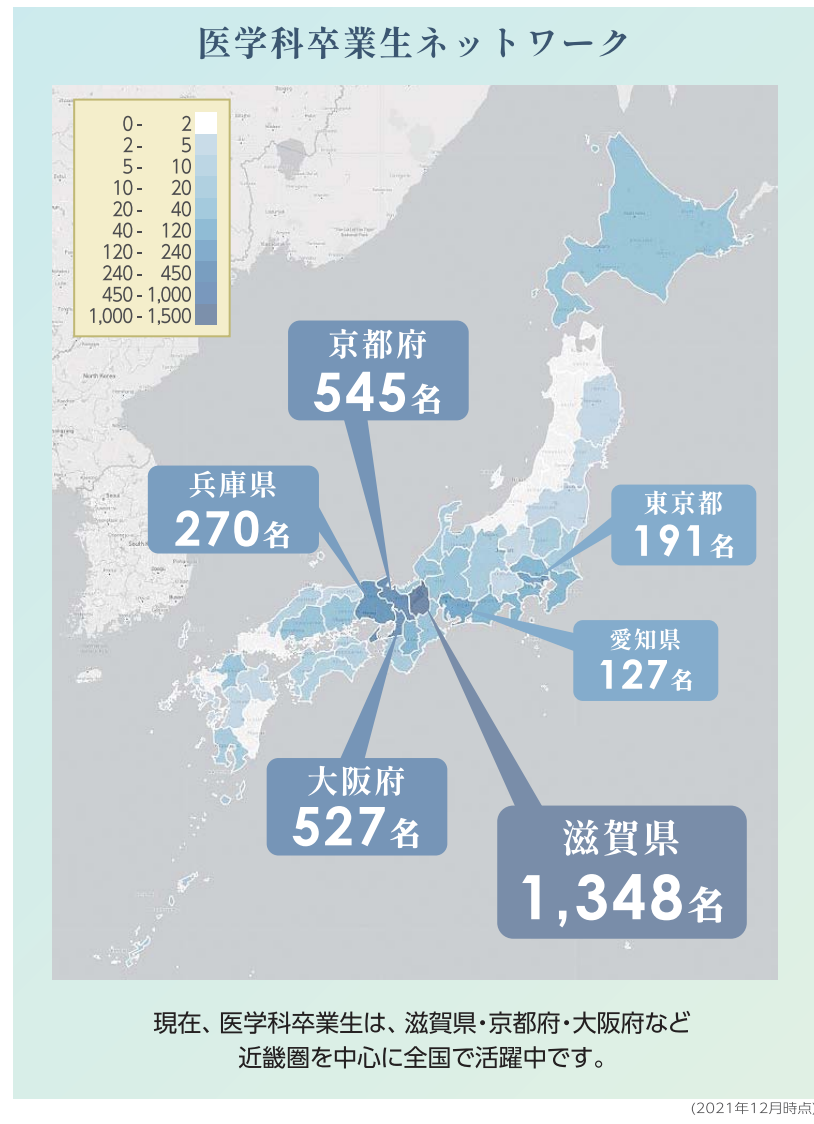
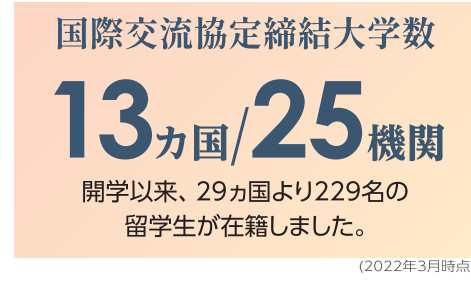
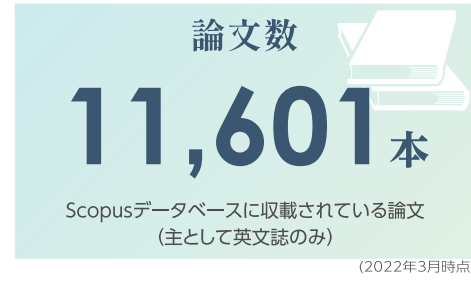
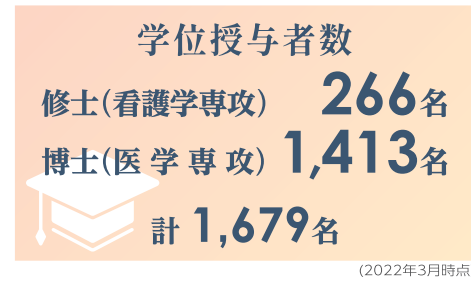
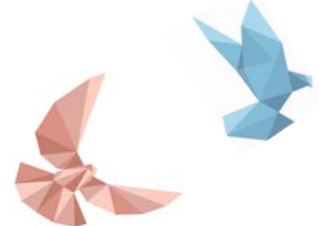


2015 平成27年 訪問看護師コース

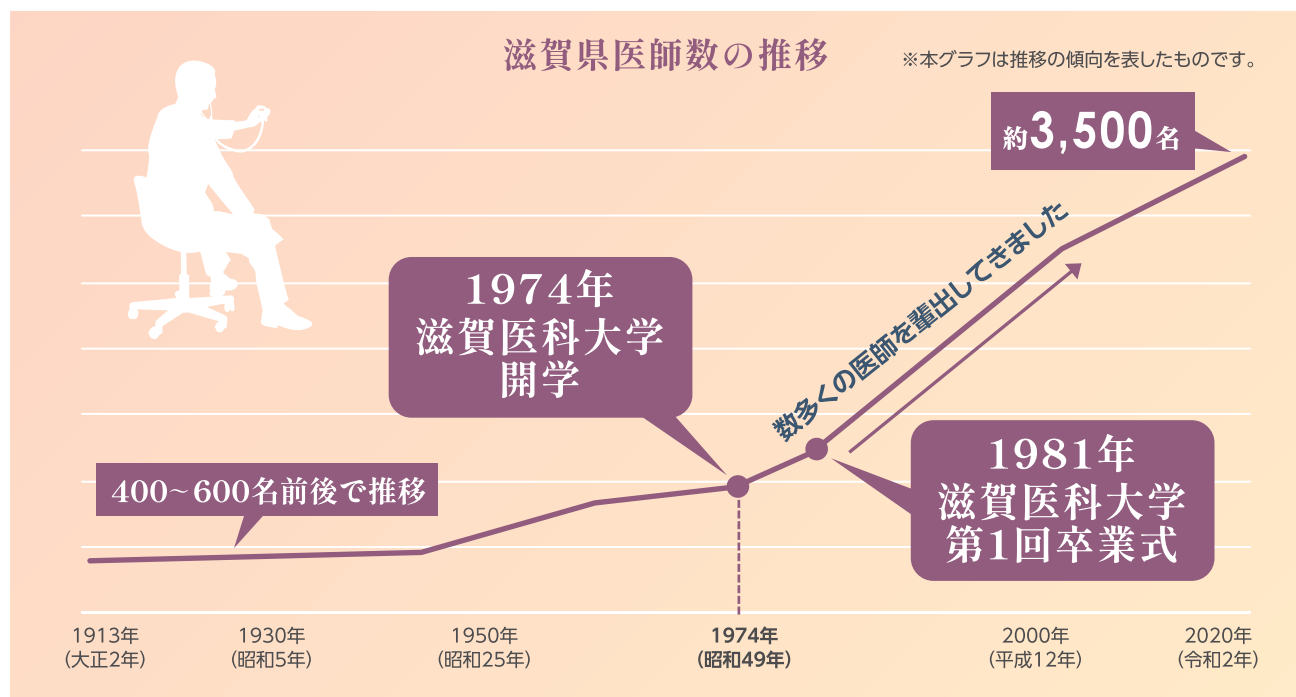
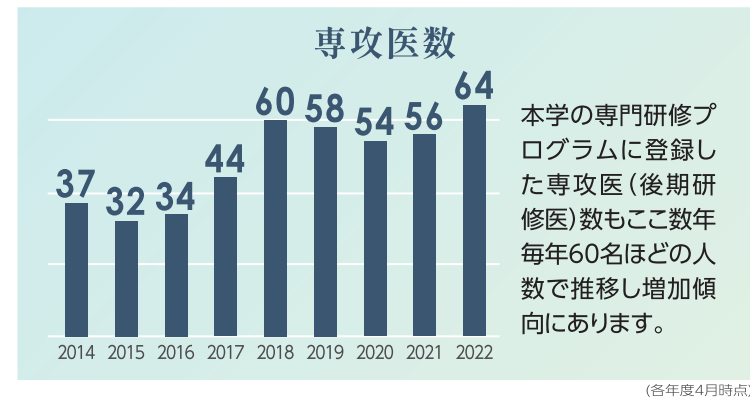
本プログラムは、看護臨床教育センター・看護学科・附属病院・滋賀県の協力体制で実施しており、本学の教員に加え在宅看護専門看護師や訪問看護認定看護師の資格を有する看護職が担当教員となることで、「訪問看護の魅力」や「在宅看護の実践」をより深く理解し、実践力のある訪問看護師を育成するプログラムを実施しています。

また、滋賀県看護協会が作成・運用している「新卒訪問看護師育成プログラム」を卒後教育として活用した、全国的にも珍しい卒前卒後の一貫した教育プログラムとなっています。

数字でみる滋賀医科大学



滋賀医科大学にまつわる数字をご紹介します。
現在も第一線で活躍する卒業生たちの声も併せて掲載します。



滋賀県で活躍する卒業生

**きづきクリニック 院長
／滋賀県医師会 理事 木築 野百合**

私が滋賀医大に入学した当時、女子は学年に8名だけでした。今の後輩たちは一学年50人以上女子学生が占める学年もあるとか。

現在は、滋賀県医師会の理事をお引き受けし、女性医師支援や、医学生、研修医をサポートする企画に関わり、毎日忙しくやっております。

兵庫県に生まれましたが、今は栗東市で開業医として、地域の方々に支えられ、先輩、後輩と連携し、頑張っています。ここ、滋賀県に骨を埋める覚悟でやっています。

50周年を目前に、滋賀医大が滋賀県のため、日本のため、全世界のために、役立つ人材を輩出し続けますように。皆様の応援を頂戴しながら、わたくしも、今まで以上に精進したいと思います。

浅井東診療所 所長 松井 善典

生まれ故郷の長浜市の診療所で、家庭医としての幅広い外来診療・多職種連携による在宅医療、卒前から専攻医育成までの医学教育、そしてプライマリ・ケア領域の研究活動を行なっています。

地域医療の現場を、滋賀医大生が医療に必要な生きた学びを得られるための第二のキャンパスにしたいと考えています。地域に支えられ地域を支える滋賀医大は、家庭医療・総合診療の人材を多数輩出しており、全国各地で先輩・後輩が活躍しています。

地域貢献でも成長を続ける滋賀医大の次の50年に向けて、多くの皆様からのご支援とご高配を賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。

**公立甲賀病院院長
／滋賀医科大学 理事(非常勤) 辻川 知之**

滋賀で生まれ育ち、現在も甲賀市で働いています。滋賀医科大学を卒業した35年以上前でさえ、「あと10年もしたら医師が余ってくる」などと言われた記憶がありますが、その後も医師不足は一部地域ではより深刻化しています。

私自身、滋賀県における地域医療の活性化にも携わるようになってから、「滋賀県の医療は主に滋賀医大卒業生が支えなければならない」と強く意識するようになりました。

開学50周年を迎えた滋賀医科大学が今まで以上に滋賀県の医療に貢献できるよう、1人でも多くの卒業生や関係者から現在と未来の学生達へエールを送る一つの形として、ご芳志を賜れば幸いです。

**滋賀医科大学医学部附属病院
看護部 副看護部長 服部 聖子**

滋賀医科大学で看護の基礎を教わり、附属病院で働き始めて20年以上がたちました。急性期病院での臨床において、日々、患者さんやご家族から「命と人の一生の尊さ」を教わっています。

看護の専門性を探求し続け、確かな看護力で地域の皆様の健康や人生を支えたいという思いは、今も昔も変わっていません。

看護師の役割拡大や地域連携の充実などを図り、地域の人々にケアがいきわたる体制構築や病院づくりを目指しています。附属病院の特性をいかし、滋賀医科大学と協働しながら、滋賀県の看護を支える人材育成に尽力していきたいと存じますので、今後とも応援いただけますと幸いです。

滋賀医科大学 開学50周年記念事業

滋賀医大版「三方よし」のもと、これからも良き医療人を育み続けるための環境整備を中心とし、卒業生、県民・地域の方々にとっても本学が「憩い」「集い」「つながる」より良い場所となるよう、様々な記念事業を展開していきます。

滋賀医大版「三方よし」 ～人を大切にし、人を育てる～

- 学生・教職員よし 滋賀が居場所と思える大学づくり
- 卒業生よし 大学のさらなる飛躍・共創する未来
- 県民・地域よし 県民のいのちと健康を守る



「憩い」・「集い」・「つながる」場所 ～湖国の医療人がここから巣立っていきます～

01 中庭リニューアル

老朽化が著しい現在の中庭を改修し、学生・教職員の「憩い」の場として、また、卒業生が「集える」場所として、そして、イベント開催時には地域の方々と「つながる」場所としてリニューアルします。

学生・教職員・卒業生からの声

- 話したり、休憩したりできるスペースがあればいいな。ベンチもほしい。
- 赤レンガは水はけが悪く、雨の日危険だよ。滑りにくい材質にして。
- 夜がとっても暗い。明るい雰囲気にしてほしいな。
- 池や植込みなどがあってまっすぐ進めないよ。
- 段差をなくして、たくさんの人が楽しめる芝生もいいな。



リニューアルポイント ～滋賀医大版「三方よし」の実現に向けて～

- 伸びやかな風景**
 - 気持ちの良い芝生広場
 - さざ波をイメージした広がりある中庭
- 自然を感じられる素材**
 - びわ湖材の活用
 - 滋賀県の木や花
- 優しい雰囲気**
 - 段差の少ない優しい広場
 - 木陰など、憩いの場になるしつらえ
- 光と風**
 - 四季を感じとれる植栽
 - 風の動きを映す木々
- 心に残る佇まい**
 - 柔らかな色合いの環境
 - 思い出深い場所となるモニュメントなど

湖国を感じる大切な場所



(完成予想イメージ)

院内をより快適な健康空間に

03 医学部附属病院 院内緑化の充実

本学医学部附属病院では、患者さんやお見舞いの方々にとって、より過ごしやすい環境を創っていきたくと考え、2020年より、『院内緑化推進プロジェクト』を推進してきました。『院内緑化推進プロジェクト』は、院内に空気浄化能力の高い植物を多く設置する活動を推進する事業です。

患者さんが安らげる心地よい緑



(完成予想イメージ)

02 学生食堂リニューアル & 同窓会(湖医会)スペースの新設

テーブルや椅子などの経年劣化が進んでいる現在の学生食堂を、食事や学習の場としてだけでなく、休息やコミュニケーションなど、多様なシチュエーションに合わせて幅広く利用できるスペースとなるよう、また、学生にとって思い出深い場所となるようリニューアルします。

学生・教職員・卒業生からの声

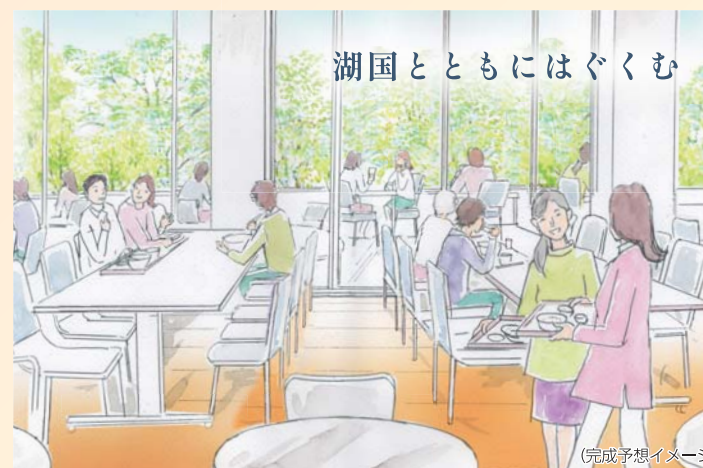
- テーブルや椅子が古くなっているのを、新しくしてほしいな。
- 1人ご飯の気分の時もあるから、カウンター席や1人用テーブルを設けては。
- 自動ドアなどで接触リスクを減らしたい。
- 解放感や明るさがもう少しほしい。清潔感もね。
- 卒業生も含め、利用しやすい環境をお願いします。



リニューアルポイント ～滋賀医大版「三方よし」の実現に向けて～

- エモーショナル**
 - 滋賀医科大学の50年間のあゆみなどを紹介するスポットの設置
- 温もりのスペース**
 - びわ湖材による温もりのある内装
 - 滋賀県の工芸品や素材の活用
- 明るく清潔**
 - 中庭との一体感が感じられる開口部
 - 安心して利用できる対策や工夫
- 多様な使われ方**
 - カウンター席などの設置
 - 可動パーティションによる空間の変化
- 生き生きとした空間**
 - テーブルや椅子の新調
 - 若々しさの感じられる色使いやサイン

湖国とともにくぐむ



(完成予想イメージ)

さあ、母校に帰ろう



(完成予想イメージ)

同窓会(湖医会)スペースを福利棟2階に整備！

学生食堂の上階フロア(福利棟2階)にある「多目的ラウンジ」を改修するとともに、卒業生が立ち寄りやすいよう、また、在学生と交流を図りやすいよう、その横に同窓会事務室を移転します。

「三方よし」とは…

「売り手よし、買い手よし、世間よし」という近江商人が大切にしていた考え方。「宗次郎幼主書置」が原典となったとされている。この書置は、後日に発刊された「近江商人」の中で、簡潔に要約されて一般に流布するようになり、さらにこの要約文をもとにして、近江商人研究者であった小倉栄一郎氏により、「三方よし」の表現が生み出され、近江商人のキャッチフレーズとなった。

参考文献「近江商人三方よし経営に学ぶ」(末永國紀著/ミネルヴァ書房/2011年)

その他記念事業として、記念式典、公開講座、記念誌発行など、各種イベントや企画を計画中です。

※掲載の完成予想イメージは、計画段階でのイメージであり、決定したものではありません。今後変更になる可能性があります。

キャンパスブランディング としての環境づくり

湖国に学ぶ医療人の巣立ちの場所として、今あるキャンパスの可能性に光を当て、充実したキャンパスライフに応えられる効果的な環境整備を行い、一人一人が誇れるような“キャンパスブランディング”を目指しています。

① 中庭リニューアル

- 中庭はキャンパス正門からのアプローチを受け止める大きなオープンスペースであり、“知のフロント”である様々な研究棟や図書館などが顔を出し、また、“交流のホットスポット”である食堂や学生ラウンジも面するキャンパスの中心となっています。
- 湖国を象徴する「大いなる自然」と、知の交流の「広がりを表す動き」とを携え、内外に滋賀医科大学や湖国の魅力を映し出すようなスペースとして整備します。



(完成予想イメージ)

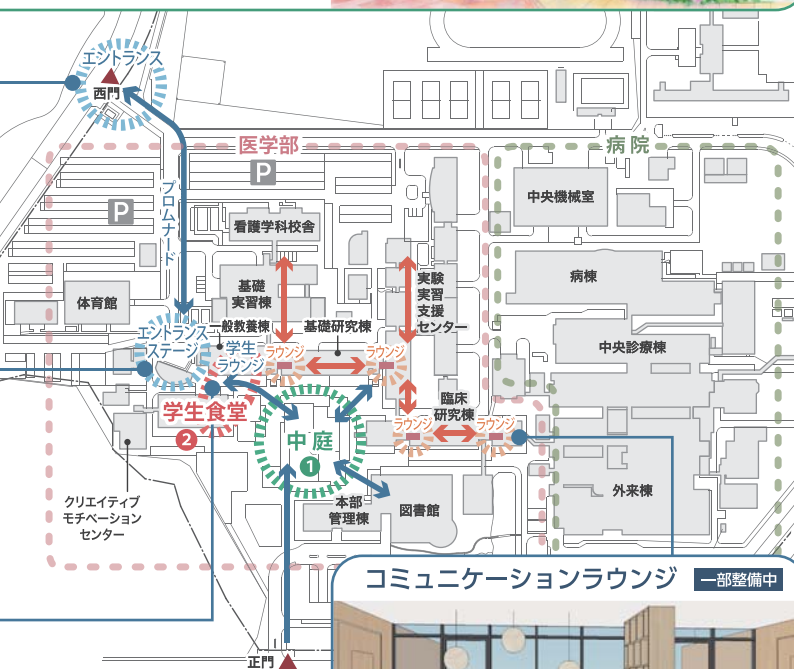
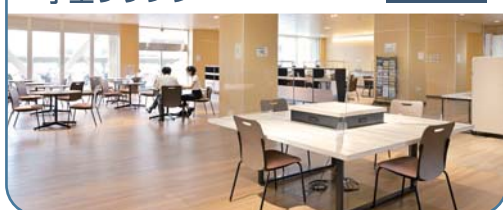
エントランス+プロムナード 未整備



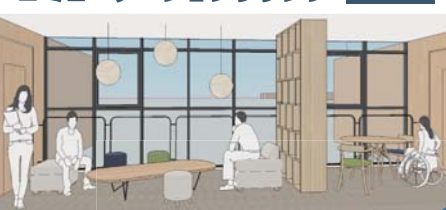
エントランスステージ 2021年整備



学生ラウンジ 2021年整備

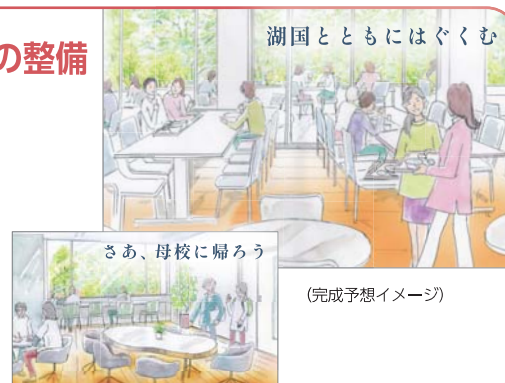


コミュニケーションラウンジ 一部整備中



② 学生食堂リニューアル&同窓会(湖医会)スペースの整備

- 学生食堂は、西門からエントランスステージ、学生ラウンジ、各研究棟ラウンジへとつながる交流活動動線のかなめとなっています。
- 食事だけではなく、学習や休息、多様なコミュニケーションが交わされ、医療人として欠かせない人とのつながりをより豊かに、また、つながりをより深めることのできるような場所としてリニューアルします。
- また、卒業生が立ち寄りやすく、卒業生と在学生等が交流を深めることのできる場所として、学生食堂の上階フロア(福利棟2階)に同窓会(湖医会)スペースを整備します。



(完成予想イメージ)

滋賀医科大学開学
50周年特設サイト

記念事業の進捗などは、特設サイトで随時お知らせいたします。
<https://50th.es.shiga-med.ac.jp>



滋賀医科大学 開学50周年 「三方よし」未来募金

様々な記念事業を展開するにあたり、是非ともご協力をお願いいたします。

● 募金要項

名 称	滋賀医科大学 開学50周年「三方よし」未来募金		
募金の目的	滋賀医大版「三方よし」の実現に向けた記念事業・イベント等の実施のため		
募金目標額	2億円		
募 金 額	■ 個人さま	1 口: 5,000円	複数口でご協力いただければ幸いです。 1口未満のご寄附もありがたくお受けします。 (1,000円以上でお願いします。)
	■ 法人・団体さま	1 口:50,000円	
募 集 期 間	2025年3月31日まで		

● お申込みの方法

銀行振込 によるご寄附

付属の「振込用紙」にご記入の上、金融機関の窓口等でお振込みください。
振込手数料は不要または本学負担です。
詳しくは振込用紙をご覧ください。

取扱指定銀行

ゆうちょ銀行、各種金融機関

クレジットカード等 によるご寄附

クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyがご利用いただけます。下記のQRコード、URLからお申込みいただけます。

お申し込みは
こちらから



https://kifu.f-regi.com/contribute/shiga_med

※なお、取得した個人情報は、本記念事業、滋賀医科大学支援基金のご案内およびそれに関わる目的でのみ使用します。

● 税制上の優遇措置

滋賀医科大学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が受けられます。別途お送りする本学発行の「寄附金領収書」に基づき、所轄税務署に確定申告してください。

個人さまの場合

■ 所得税の控除

所得税法第78条第2項第2号により、その年に支出した寄附金額(総所得金額等の40%が上限)から2,000円を差し引いた額を、課税所得から控除することができます。

■ 住民税の控除

滋賀医科大学を寄附金控除の対象法人として条例で指定している都道府県・市区町村にお住まいの方は、個人住民税の控除を受けることができます。控除率は都道府県・市区町村あわせて最大10%です。(詳しくは、お住まいの都道府県及び市区町村の住民税担当課にご確認ください。)

なお、2022年3月現在で、本学が確認できている

個人住民税控除対象の都道府県・市区町村は、滋賀県・大津市です。

法人・団体さまの場合

寄附金の全額を損金算入することができます。(法人税法第37条第3項第2号)

● ご寄附をいただいた方への謝意

感謝の気持ちを込めて、累計寄附金額に応じ、芳名板の掲示や感謝状の贈呈をさせていただきます。

謝 意		個人さま	法人・団体さま
銘板の掲示 ※1	銘板(大)の掲示	100万円～	500万円～
	銘板(中)の掲示	50万円～	200万円～
	銘板(小)の掲示	10万円～	50万円～
記念式典へのご招待		50万円～※2	50万円～※2
感謝状の贈呈		50万円～	50万円～
ご芳名をHPへ記載		全寄附者※3	全寄附者※3



銘板完成予想イメージ

※1 銘板はご希望により掲載しないことも可能です。※2 2024年3月末までに寄附いただいた方。※3 匿名希望の方または掲載を希望されない方は除きます。

寄附者 一覧

<https://50th.es.shiga-med.ac.jp/benefactorslist>

ご寄附いただきました方々への感謝の意を込め、開学50周年特設サイト上に
ご芳名を掲載させていただきます。



開学50周年記念事業 準備委員会

令和4年9月現在

上本 伸二 学長
遠山 育夫 理事／副学長
田中 俊宏 理事／病院長／副学長
松浦 博 理事／副学長
中野 正昭 理事／副学長／事務局長
辻川 知之 理事／公立甲賀病院 理事長／
同窓会(湖医会) 副会長
永田 啓 同窓会(湖医会) 会長
金子 均 同窓会(湖医会) 副会長／
金子労働衛生コンサルタント事務所 所長
高橋祥二郎 株式会社滋賀銀行 取締役頭取
角野 文彦 滋賀県健康医療福祉部 理事
辻 喜久 札幌医科大学医学部 教授
森野勝太郎 学長補佐／IR室 室長・准教授
漆谷 真 病院長補佐／内科学講座(脳神経内科) 教授
北川 裕利 副理事／副病院長／麻酔学講座 教授
河村奈美子 臨床看護学講座(精神) 教授
相見 良成 同窓会(湖医会) 副会長／
基礎看護学講座(形態・生理) 教授
向所 賢一 副理事／医学・看護学教育センター 教授
等 誠司 副理事／
生理学講座(統合臓器生理学部門) 教授
谷 真至 外科学講座(消化器外科) 教授
平田多佳子 生命科学講座(生物学) 教授

開学50周年「三方よし」未来募金 後援者

令和4年9月現在 ※50音順

■ 学外有識者会議委員

青木 豊彦 株式会社アオキ 取締役 会長
雨森 正記 弓削メディカルクリニック 理事長
稲垣 暢也 京都大学大学院医学研究科
糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授
小椋 正清 東近江市長
越智 眞一 滋賀県医師会 会長
金子 隆昭 滋賀県病院協会 会長
金子 均 同窓会(湖医会) 副会長／
金子労働衛生コンサルタント事務所 所長
蔡 晃植 長浜バイオ大学 学長
高橋祥二郎 株式会社滋賀銀行 取締役頭取
西村 路子 滋賀県立総合病院 院長補佐・看護部長
伴 正 滋賀県病院薬剤師会 会長
三日月大造 滋賀県知事

■ 経営協議会委員

稲盛 豊実 社会福祉法人盛和福祉会 理事長
井上理砂子 元京都新聞社 論説委員
大杉 住子 滋賀県副知事
滝 和郎 三重大学 名誉教授
竹村 彰通 滋賀大学 学長
野崎 和彦 国立病院機構東近江総合医療センター 副院長
畑下 嘉之 社会福祉法人青祥会 理事長
廣川 能嗣 滋賀県立大学 理事長／学長
廣原 恵子 滋賀県看護協会 前会長



国立大学法人

滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

国立大学法人滋賀医科大学総務企画課
 〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
 電話:077-548-2012 / FAX:077-543-8659
www.shiga-med.ac.jp